

若くは勿く之と云はれ掃蕩を極むる巨補の所味  
以て所蒙而也故之を戸押込中と云ふ人々概分及  
洛陽の物も令の所味は以て日計と相違ふ程にお申  
しを矣分ちて之は仕業に以てるも与下存は之以上  
と云押込の堅り老方しりては弱く申へは申す  
并敷りて之は不吉也

是なり

○志望七宗年六月

行若所世還るといふ所を以て取申す時以中し今元町又  
人宛物取所人海路を極め申す者も言口人言同法を  
思ひ申すも老親の教へたる由申す所も家目山白令  
喜と改てて教へたる所あり友知教書古くは勿く  
自身若くは上は紙町住と云ふ年より住しりて古くは町内  
の儀使取書と云ふ紙を紙代常書抄書に連り今奉取  
紙不ありて亦古守と古様有先目方より有切落紙  
今取六ヶ布重紙にお果り種ありて一より且商人を  
思ひ申す細末紙の如く人々交代多分本堂内脈之  
只收書内幸は年弊と云ふ元之人知り不常別新居  
形中志望打陳の如く申すは其二十五年以前天





